

扱い：配布後解禁

令和5年5月29日

記者発表

第5回 北陸地方整備局インフラDX推進本部会議を開催

ICT技術の全面的な活用の令和5年度実施方針を決定 10部会が進めている取り組みの実施状況を報告

北陸地方整備局では、インフラDXを推進するため、推進本部内に設置した10部会において、デジタル技術の活用・導入による生産性向上に向けた取り組みを進めています。

令和5年5月22日（月）に第5回推進本部会議を開催し、ICT技術の全面的な活用の令和5年度の実施方針を決定した他、各部会が進めている取り組みの実施状況の報告および意見交換を行いました。

～令和5年度の新たな取り組み～

- ① ICT小規模土工を拡大
施工者希望Ⅱ型において、土工量100m³程度までの工事は、ICT小規模土工として発注。
- ② ICT構造物工を拡大
橋梁上部工を対象に、3次元計測技術を用いた出来形管理について本運用を検討。
- ③ 営繕の新営工事において、EIR（発注者情報要件）を適用した施工BIMの実施。

その他の取り組み

I. ICT技術の全面的な活用（審議）

1. ICT活用工事の実施方針

(1) ICT土工

・発注者指定型【継続】

本官発注工事と土工量10,000m³以上の分任官発注工事。

・施工者希望Ⅱ型【継続】

土工量10,000m³未満は全て施工者希望Ⅱ型で発注。なお、土工量1,000m³未満の工事は、ICT土工（1,000m³未満）として発注。

(2) ICT舗装工

・発注者指定型【継続】

5,000n²以上の本官発注工事、またはアスファルト舗装A等級工事。

・ 施工者希望Ⅱ型【継続】

5,000 m³未満の分任官発注工事で、現道交通(乗り入れを含む)の影響を受ける工事。

(3) ICT河川浚渫工【継続】

・ 対象は全て施工者希望Ⅱ型で発注。

(4) ICT地盤改良工【継続】

- ・ 対象は全て施工者希望Ⅱ型で発注。
- ・ 未実施の理由、課題について検証し、検討を進める。

(5) ICT法面工【継続】

- ・ 対象は全て施工者希望Ⅱ型で発注。
- ・ 未実施の理由、課題について検証し、検討を進める。

(6) ICT舗装工(修繕工)【継続】

- ・ 対象は全て施工者希望Ⅱ型で発注。
- ・ 未実施の理由、課題について検証し、検討を進める。

(7) チャレンジ砂防プロジェクト (ICT砂防・ほくりく)【継続】

- ・ 対象は発注規模(土工量・金額)に関わらず、ICT建機での施工が困難で、かつUAV／レーザスキャナ測量による施工効率・安全性の向上を図ることが出来る工事として、発注者が指定した工事。(施工者希望Ⅱ型で発注)

(港湾関係)

(8) ICT浚渫工【継続】

- ・ 対象は水路測量を伴う浚渫工事。

(9) ICT基礎工【継続】

- ・ 全ての工事で実施。
- ・ 施工者希望型の導入促進を図る。

(10) ICTブロック据付工【継続】

- ・ 全ての工事で実施。
- ・ 施工者希望型の導入促進を図る。

(11) ICT本体工【継続】

- ・ 該当する工事から、モデル工事を選定し、導入促進を図る。

(12) ICT海上地盤改良工【継続】

- ・ 該当する工事における試行を目指す。

2. ICT活用のための講習会、研修等

- ・ 北陸ICT戦略推進委員会(本局、事務所、自治体、業団体)で連携し、参加者のレベルやニーズにあわせた各種講習会、見学会等を企画開催。【継続】

3. 監督・検査

- ・ 発注者(自治体を含む)を対象としたICT活用工事の監督検査研修等を開催するとともに、自治体主催のICT講習会等へ整備局職員を派遣するなど、職員の養成や自治体への支援拡大を図る。【継続】
- ・ 遠隔臨場を活用した工事検査については、通信環境を確保できる全ての工事で原則実施。【継続】

4. BIM/CIMの活用・普及

- ・全ての直轄土木工事、及び詳細設計でBIM/CIMを原則適用。【継続】
- ・発注者が活用目的を明確にして、受注者が3次元モデルを作成・活用する。
- ・活用目的の設定にあたっては、業務・工事の特性に応じて、義務項目、推奨項目から発注者が選択する。
- ・義務項目は、「視覚化による効果」を中心に未経験者も取組可能な内容とした活用目的であり、原則全ての詳細設計・工事において発注者が明確にした活用目的に基づき、受注者が3次元モデルを作成・活用する。
- ・推奨項目は、「視覚化による効果」の他、「3次元モデルによる解析」など、高度な内容を含む活用目的であり、一定規模・難易度の事業において、発注者が明確にした活用目的に基づき、受注者が1項目以上取り組むことを目指す。
- ・地元企業の参入拡大の取り組みとして、総合評価（簡易（特別）型）での業務発注。

【継続】

（港湾関係）

- ・全ての直轄港湾工事、及び詳細設計でBIM/CIMを原則適用。【継続】

II. DXデータセンターの活用（報告）

別紙のとおり

III. DX人材育成センターの活用（報告）

別紙のとおり

IV. 各部会の取り組み（報告）

別紙のとおり

V. 事務所の取り組み（報告）

別紙のとおり

以 上

【同時FAX先】(株)建設速報社、新潟建設工業新聞社、日刊建設通信新聞社新潟支局、
日本工業経済新聞社新潟支局、日刊建設工業新聞社北陸総局、建設ジャーナル社、
産業新聞社北信越支局、鉄鋼新聞社新潟支局、北陸工業新聞社新潟支局

【問い合わせ先】国土交通省北陸地方整備局 TEL：025-280-8800（代）

企 画 部	建設情報・施工高度化技術調整官	小幡	淳（内線3132）	全般
港湾空港部	港湾情報化推進官	吉岡	清智（内線6314）	港湾
営繕部	官庁施設管理官	坂田	勉（内線5114）	営繕

第5回 北陸地方整備局インフラDX推進本部会議

日時：令和5年5月22日（月）14時50分～

場所：北陸地方整備局 4階 共用会議室

次 第

1. 開会

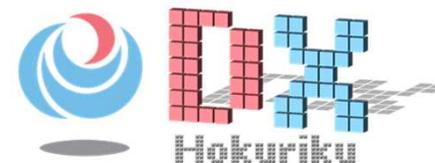
2. 議事

- (1) ICT技術の全面的な活用（審議）
- (2) DXデータセンターの活用（報告）
- (3) 北陸インフラDX人材育成センターの活用（報告）
- (4) 各部会の取り組み（報告）
- (5) 事務所の取り組み（報告）

3. 閉会



第5回 インフラDX推進本部会議



令和5年5月22日

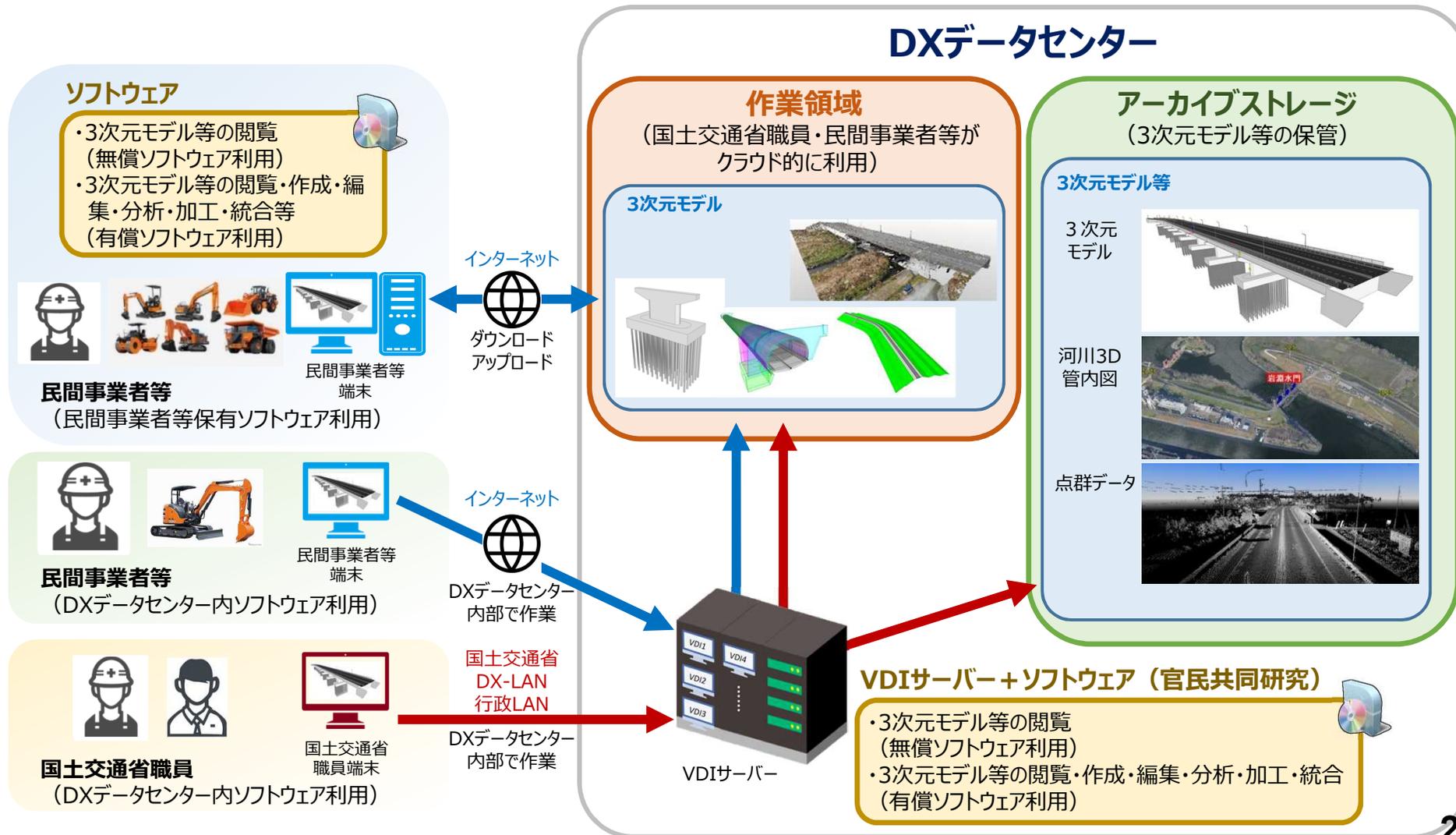
議 事

- (1) ICT技術の全面的な活用(審議)
- (2) DXデータセンターの活用(報告)
- (3) DX人材育成センターの活用(報告)
- (4) 各部会の取り組み(報告)
- (5) 事務所の取り組み(報告)

DXデータセンターの概要(令和5年3月本格運用開始)

○BIM/CIM等で用いる3次元モデル等を保管し、受発注者が測量・調査・設計・施工・維持管理の事業プロセスや、災害対応等で円滑に共有するための実証研究システムとして「DXデータセンター」を構築

○当面の取り組みとして、3次元モデル等を取り扱うソフトウェアを搭載することにより、受発注者が3次元モデル等の閲覧、作成、編集等を遠隔で行うことが可能



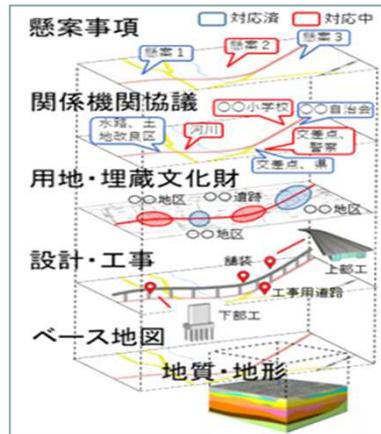
北陸地方整備局におけるDXデータセンターの活用例



➤ 計画段階、施工段階、管理段階に情報の一元化など、DXデータセンターの機能を最大限活用するための方策について検討を実施

プロジェクト情報の共有

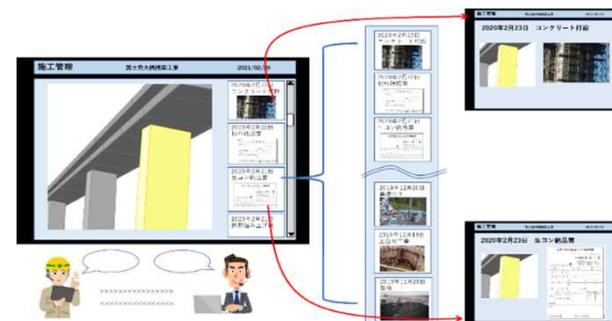
関係者間で認識すべき情報・後任に引き継ぐべき情報（調査・設計の進捗、用地・埋文調査の進捗、地元・関係機関との協議における要調整事項等）を、工区全体の3Dモデルに紐付けし、複数の情報共有・管理を行い事業管理の効率化を図る。



【試行中:R4~】吉田バイパス(新潟国道)

施工管理情報の共有

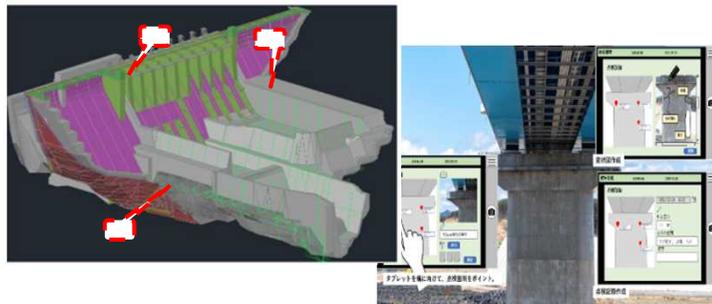
施工者が施工管理情報（帳票、工事写真、材料試験結果、納品書等）をBIMCIMに属性情報として貼り付け、施工管理記録の保管・共有を行い施工管理情報の一元化を図る。



【試行中:R4~】大河津分水路改修事業(信濃川)
【試行中:R4~】六家立体事業(富山河川国道)

施設点検情報の共有

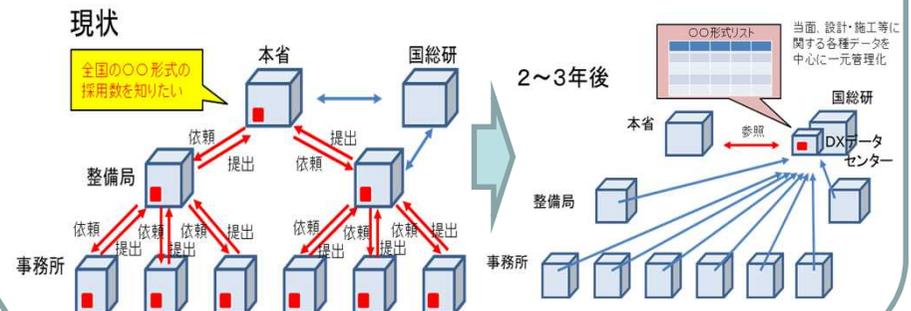
点検対象施設のBIMCIMモデルを作成し、点検結果（画像、点検票、損傷図）および診断結果を過去の結果も含めて属性情報として入力し、情報共有の効率化、及び迅速な診断・補修方法の検討を図る。



【検討中:R4~】砂防施設管理情報の三次元化(河川部)
【検討中:R4~】橋梁点検結果の三次元化(北陸技術)

各種業務の効率化

関係機関へ依頼する各種調査について、データファイルをメールでやりとりする手法から、DXデータセンターのデータファイルに直接データ入力する手法へ転換することにより、入力作業の効率化、データ送信・集約作業の削減、データの共有化による活用促進を図る。



議 事

- (1) ICT技術の全面的な活用(審議)
- (2) DXデータセンターの活用(報告)
- (3) DX人材育成センターの活用(報告)
- (4) 各部会の取り組み(報告)
- (5) 事務所の取り組み(報告)

北陸インフラDX人材育成センターの整備

- 自治体を含む発注者及び受注者におけるインフラDX推進を担う人材育成、及び情報発信拠点として、北陸技術事務所に「北陸インフラDX人材育成センター」を設置
- 来年度、「屋内研修施設」、「DXルーム」、「遠隔操作室」を整備し、年内に開所予定

令和4年度				令和5年度			
第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
施設詳細設計		実習盛土		屋内研修施設・DXルーム・遠隔操作室整備			
遠隔対応BH購入				シミュレータの設計製作・購入			
研修カリキュラム検討				● 開所予定			

DXルームに設置するコンテンツ(案)

メニュー(案)	内容等
VR体験	・BIM/CIM成果の3DモデルのVR体験
遠隔臨場体験	・ウェアブルカメラによる遠隔臨場体験
3D測量体験	・タブレットを使用した3D測量体験
シミュレータ体験	・建設機械、除雪機械、UAVのシミュレータ体験

